

**実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等**

1. 実践校について

申請校名	横浜市立永田台小学校 (よこはましりつ ながただいしょうがっこう)		
	学科名	生徒数	学級数
	/	4 7 8	1 8

2. 実践研究の対象

全校児童

3. 実践研究の実施経過

- ・永田みなみ台まちづくり運営委員会 2か月に1回実施
- ・UR空き店舗とその前の広場を活用する「つながり祭」の準備
- ・「つながり祭」(持続するまちづくりをイメージして子どもが企画の名称を決めた)
「つながり祭」の中で、地域課題(①②③)解決に向けた内容を盛り込んでいく。
- ・2ヶ月に一回「つながり祭」開催・振り返り 各学年がそれぞれのテーマでの関わり方を考え、出展したり、語り合ったり、行動したりする。
- ・今年度3月「特定非営利活動法人 永田みなみ台 ほっとサライ」の立ち上げが実現する。

(環境・社会・経済のバランスを考えた取組を継続する。収益を上げることが必要なことにも出会えるようにする。)

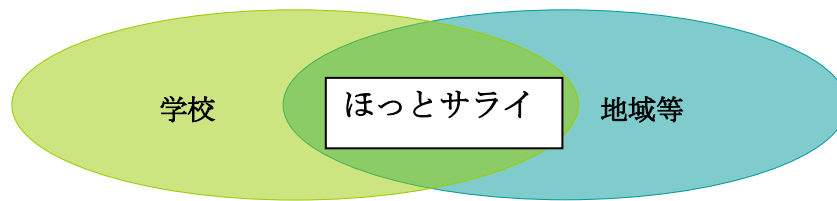
(将来的に自主財源で日常的に持続的に活動ができる場を目指してきた。赤ん坊から高齢者までが集える場づくり。子どもと高齢者が自然に地域課題解決に向かえるような場づくり。)

4. 実践研究の実施体制

「永田みなみ台まちづくり運営委員会」(以下運営委員会)を地域で立ち上げ、本事業の関係者が委員として参加する。学校代表は委員として参加すると共に、運営委員会との連携を密にし、児童の活動とのつながりを調整する。運営委員会は、多世代の交流の場として、子どもたちの健全育成、高齢者の孤立化防止・地域の活性化を図ることを主たる目的とする。

自治会にある既存の組織と学校の関連組織及び教育活動との連携関係をつくり、他機関の協力を得ながら課題解決に当たる。

「寺子屋みなみ」⇒「永田みなみ台まちづくり運営委員会」⇒「ほっとサライ」
…持続可能なまちづくりについて関係者が話し合う場



5. 実践研究の評価等

- ①ゴミ問題：地域のゴミの排出量の減少、ゴミの出し方の変化
- ②高齢者対策：つながり祭への参加人数の増加、認知症サポーターへの相談
- ③活性化：つながり祭への参加人数の増加、地域の人々の行動変容
(環境整備や行事等への参加数増加) 学校との連携強化他
 - ・アンケート調査
 - ・サステイナブルマップの加除修正
 - ・つながり祭の報告書より

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：横浜市立永田台小学校

概要

- 多世代交流・まちの活性化を目指した「つながり祭」を通じて、地域の一員である自覚と持続可能な未来社会の担い手であるという意識を育む学習プログラムを開発する。

学習プログラムのねらい

- 「みんなで考えよう 持続可能な永田みなみ台のまちづくり」
～多世代交流・まちの活性化を目指した「つながり祭」～
- ・ 学校が保護者・地域・行政・企業・NPO 等と連携して、地域の課題に取り組む場をつくる。
- ・ 児童は地域の課題解決に向けて、地域と共に取り組む事によって、地域の一員である自覚と持続可能な未来社会の担い手であるという意識を醸成する。

GAPの優先行動分野をつないで、学校が地域のコアとなって課題解決にあたるモデルとなる。自分たちの取組が、地域の人に影響を与え、地域の人々が持続可能な社会作りに向けて行動し始める（社会変容）ことに繋がることを、自信をもって語るようになる。

取組を通して気候変動・生物多様性・防災・持続可能な生産と消費への意識の向上を図る。

学習プログラムの主な内容

①地域のゴミ問題

自治会・商栄会・区役所・環境創造局・資源循環局・環境行動推進員

関連：3・4年生 社会「ゴミゼロへの取組」「ゴミの収集と処理」

特別支援学級「生ゴミワーストワン脱出大作戦」

②地域の高齢化・認知症対策

区役所・社会福祉協議会・民生委員・老人会・保健活動推進委員

地域ケアプラザ・認知症見守り隊・認知症サポーター・保健福祉センター

関連：5・6年生「総合的な学習の時間」

③地域の活性化

区役所・自治会・地域ケアプラザ・民生児童委員・青少年指導員

スポーツ推進委員・UR・PTA・NPO・企業等

関連：全校各教科や総合的な学習の時間、課外活動「地域巡り」「つながり祭」「ほっとサライ」

学習プログラムの成果の概要

- ① 「金沢焼却工場見学」「リサイクル教室」で、子どもたちは、毎日のごみの捨て方を直し、行動を変え始める子が出てきた。持続可能なライフスタイルを意識し始めている。「つながり祭」の前に行われる「ごみひろいボランティア」に参加する子も出てきた。
- ② 地域の中に認知症のお年寄りがいるということが知り、出会ったときにどのような声掛けができるのか学ぶことができた。さらに、自分の祖父母の現状につなげて考えることもできた。
- ③ つながり祭に参加し続けることにより、子どもは、地域の方の力によって、いつもは寂しく感じるシャッターの閉まった空き店舗がにぎやかになることを感じた。また、地域の方との交流をより深めることができた。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究 実施方法等

1. 実践校について

実践校名	(よこはましりつおいまつちゅうがっこう) 横浜市立老松中学校		
学科名	生徒数	学級数	
/	4 1 5	1 3	

2. 実践研究の対象

第 2 学年 1 4 2 名 4 学級

3. 実践研究の実施経過

(1)今の自分を見つめる (総合 2 時間)

- ・自分の長所や短所、興味関心等について見つめ、自分がどんな仕事に向いているのか、どんな仕事に就きたいかを考える。
- ・適性調べ等で得た情報をもとに、体験したい職場を選ぶ。

(2)職場体験について意識を高める (総合 4 時間)

- ・NHK ドキュメント「大人ってすごい！～14歳の職場体験～」を視聴して職場体験について考える。
- ・体験中のマナーについて知る。
- ・体験中に起きそうな事故や問題に対して理解を深める。
- ・事前訪問における仕事内容や留意点を確認する。

(3)職場体験を実施する (総合 30 時間)

- ・体験の中で礼儀やマナー、挨拶や言葉遣い等を意識する。
- ・働く意義や仕事の大切さ、やりがいなどを自分なりに考えながら体験する。

(4)事後学習として「職場体験」について話し合い、「将来の自分」について考える

(総合 6 時間)

- ・体験内容を報告書にまとめる。
- ・作成したものを使って報告会を行う。

4. 実践研究の実施体制

老松中学校ではキャリア教育の一環として、中学2年生を対象として地元企業等（平成29年度は約60団体）にお願いをして、9月の2週目に5日間の職場体験学習を実施しています。

本校の職場体験学習では、以下の4つをねらいとしています。

- ①事に従事する中で、自己や他者への理解を深め、感謝の気持ちを持つ。
- ②社会に出る体験を通して自らの生き方を考える。
- ③事に従事する人々の工夫・苦勞・喜びを体感しながら望ましい職業観を育てる。
- ④地域の事業所に行くことで、地域社会の一員としての自覚を高める。

5日間の職場体験学習を経験することで、生徒たちは、確実に仕事や地域社会に向ける見方や考え方が変わっていきます。仕事の体験から働くことの厳しさを知り、今の自分にできることやこれからの自分を見つめ直していく機会となり、また、地域社会の中で生活している自分に気づいていきます。

今後、社会に開かれた教育課程を実現していく上では、地域の教育力の充実が必要不可欠です。地域社会と学校が連携・協働していくなかで、「子どもたちに対してどのような資質を学ばせるのか」という目標の共有」をしていき、より一層、充実した学習活動につなげていきたいと考えています。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：横浜市立老松中学校

概要

- 実社会（地域の事業所）に出て仕事に従事する体験を通して、自己や他者への理解や感謝の気持ちを学び、自らの生き方を考えるとともに、仕事に従事する人々の苦勞・やりがい等を体感し、自身の職業観を育てていく。

学習プログラムの目標

- 自ら課題を見つけ、主体的に学び、判断してより良く課題を解決する力を育む。
- 他者との関わりの中で対話的・協同的な学び方や考え方を身につける。
- 地域の中での体験を通して、地域貢献や社会参画の意識を育む。

学習プログラムの主な内容

- ① 今の自分を見つめる
 - ・自分の長所や短所、興味関心等について見つめ、自分がどんな仕事に向いているのか、どんな仕事に就きたいかを考える。
 - ・適性調べ等で得た情報をもとに、体験したい職場を選ぶ。
- ② 職場体験について意識を高める
 - ・NHK ドキュメント「大人ってすごい！～14歳の職場体験～」を視聴して職場体験について考える。
 - ・体験中のマナーについて知る。
 - ・体験中に起きそうな事故や問題に対して理解を深める。
 - ・事前訪問における仕事内容や留意点を確認する。
- ③ 職場体験を実施する
 - ・体験の中で礼儀やマナー、挨拶や言葉遣い等を意識する。
 - ・働く意義や仕事の大切さ、やりがいなどを自分なりに考えながら体験する。
- ④ 事後学習として「職場体験」について話し合い、「将来の自分」について考える
 - ・体験内容を報告書にまとめる。
 - ・作成したものを使って報告会を行う。

学習プログラムの成果の概要

- 今の自分を見つめる。
- 職場体験について意識を高める。
- 職場体験を実施する。
- 事後学習として「職場体験」について話し合い、「将来の自分」について考える。

**実社会との接点を重視した課題解決学習プログラムに係る実践研究
実施方法 等**

1. 実践校について

実践校名	よこはましりつわかばだいちゅうがっこう 横浜市立若葉台中学校		
学科名	生徒数	学級数	
/	256	11	

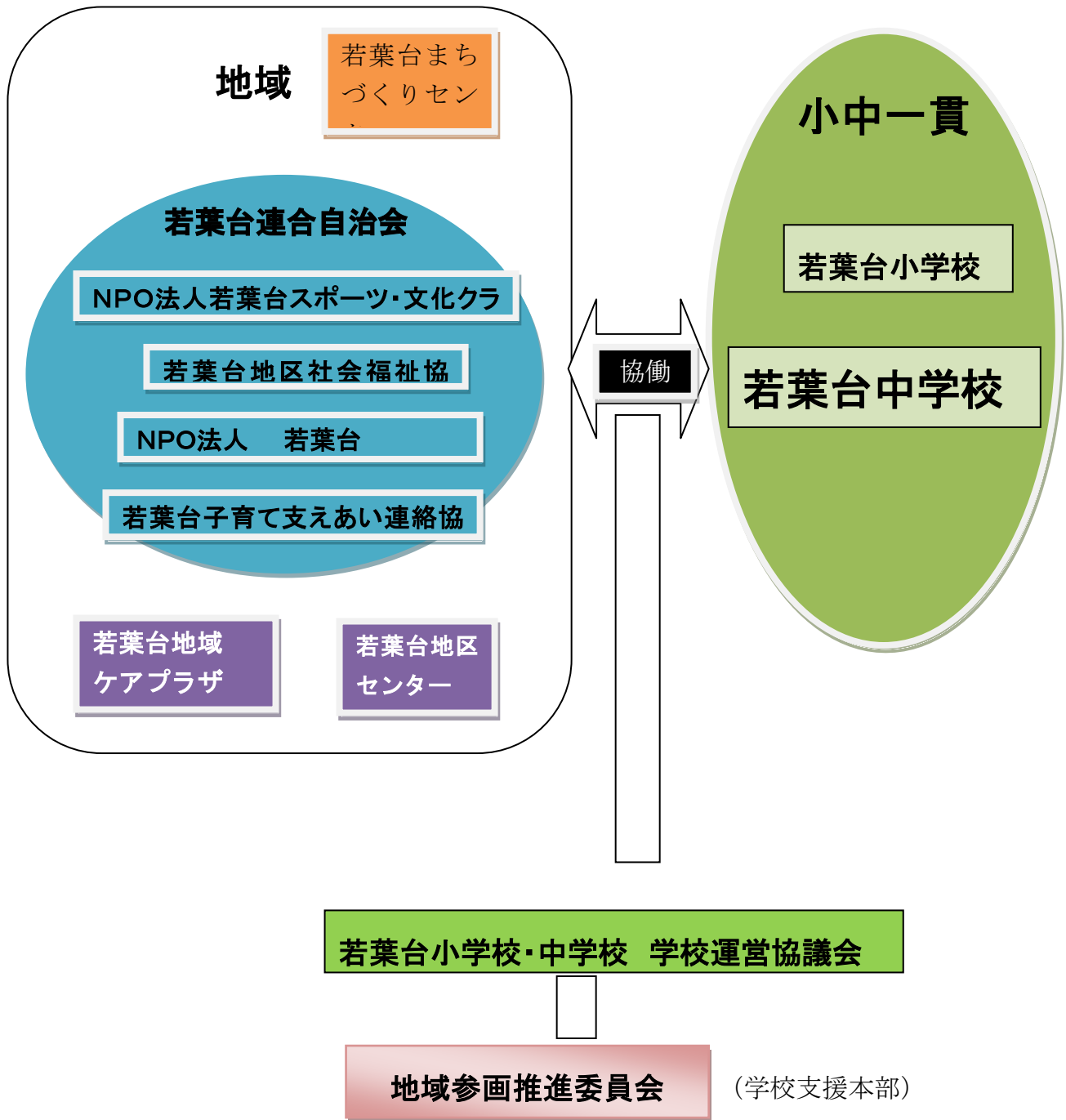
2. 実践研究対象

全校生徒

3. 実践研究の実施経過

- 5月 5日（金）こどもの日 みんなあつまれ（地域行事）
- 6月 3日（土）学校運営協議会にて報告 実践計画等報告
- 7月13日（木）茶道部による特別支援学校との交流
- 17日（月）ペットボトルロケット
- 29日（土）若葉台夏まつり
- 9月17日（日）地域合同防災訓練
- 23日（土）孫子老の日（中止）
- 30日（土）若葉台小学校運動会ボランティア参加
- 10月 2日（月）募金活動 小中学生と社会福祉協議会
- 8日（日）若葉台大運動会（10自治会）
- 11月 2日（木）地域交流授業 地域の方々を招いての講話等
- 12日（日）若葉台連合文化祭
- 22日（水）職業講話 地域の方々を招いての講話 1学年生徒参加
- 12月23日（木）若葉台まちづくりセンター主催「あったかコンサート」
- 1月11日（木）模擬面接（多世代交流）3学年生徒
- 15日（月）～16日（火） 模擬面接（多世代交流）3学年生徒
- 2月 3日（土）若葉台ソフトバレーボール大会（多世代交流）
- 11日（日）若葉台駅伝大会（多世代交流）
- 22日（木）保育実習 3年生徒参加
- 23日（金）～28日（水） 保育実習 3年生徒参加

4. 実践研究の実施体制



地域参画推進委員会が、連絡調整を行う。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名 横浜市立若葉台中学校

概要

○地域の行事に参加、また地域の方々との話やかかわりを通して、地域の課題を見つけ積極的にその課題に取り組む姿勢を培うとともに、問題解決能力やコミュニケーション能力を育むことを目指す学習プログラムを開発する。

学習プログラムの目標

- 地域や社会の中で、人々との触れ合う機会を持つなど豊かな体験を通して、
- ①地域や社会の抱える課題を見つけ、解決に取り組む力を高める。
 - ②社会性や協働性、問題解決能力やコミュニケーション能力を高める。

学習プログラムの主な内容

①多世代交流

地域と接点を持つために、教職員、生徒ともに地域の行事へ積極的に参加する。

行事名：みんなあつまれ・ペットボトルロケット・若葉台夏まつり

地域合同防災訓練・若葉台小学校運動会・若葉台大運動会

若葉台連合文化祭・あったかコンサート・模擬面接

若葉台ソフトバレーボール大会

若葉台駅伝大会

②福祉体験や子育て支援

地域の方々、特に高齢者や小学生、重度障害のある生徒と交流する。また、近隣の保育園と連携し、3年生全生徒が、保育実習を行う。

行事名：茶道部による特別支援学校との交流

孫子老（まごころ）の日、募金活動、保育実習

③地域交流

地域の人材を活用し、戦争体験講話や福祉介護体験講座の体験を行う。

行事名：地域交流授業、職業講話

学習プログラムの成果の概要

○多世代交流

地域の方々と多くの生徒が交流をする機会をいろいろな場面で設定し、地域を理解し、地域の課題や地域の活動を見出すことで、地域の中で今後自分にできることは何かを考えるようになった。

○福祉体験や子育て支援

これからますます高齢社会になる中で、社会や自分のすべきことなどの課題を見つけ、解決しようと積極的に取り組む姿勢を身に付けることができた。

○地域交流

認知症に対する知識や救急法などの知識を習得するだけでなく、色々な場面にあった課題解決に必要なスキルを身に付けることができた。